

新型コロナウイルスワクチン接種



川口市立医療センター

呼吸器内科

は た のり ひこ
羽 田 憲 彦

2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症は、数カ月で世界中に広がり多くの人の命を奪い、人々は不自由な生活を強いられています。この感染症の治療法は未だ確立されておらず感染収束のためには、ワクチン接種が必要と考えられます。

ワクチン接種は、自分が感染しないことを期待するほか、同時に接種を受けていない人々を守るという集団免疫への期待もあります。すなわち、多くの人が免疫を持っていると感染する人が減り、結果として免疫のない人も守られることになります。

日本でのワクチン接種は医療従事者から開始され、4月中旬～高齢者(本市では高齢者施設の入所者等から接種を実施)に対し実施し、その後、基礎疾患のあるかたと進みます。心配される副反応ですが、接種部の痛みや腫れのほか、全身症状として、疲労、頭痛、筋肉痛、悪寒、発熱、嘔気などがありますが、大きな心配はありません。また、まれにですが、アナフィラキシーという比較的重いアレルギー反応が起こることがあり、じんましん蕁麻疹、喘鳴、血圧低下、嘔吐、腹痛などが接種後15～30分以内に出現します。適切な処置で今のところ症状は回復していますが、薬剤、果物など食物アレルギーのあるかたは注意が必要です。なお、花粉症、喘息といったアレルギー疾患のかたは大丈夫なようです。

特に高齢者、糖尿病、肥満、喫煙歴のあるかたは新型コロナウイルス感染症の重症化リスクが高く、副反応よりも効果の方が比重が高いと思われますので積極的にワクチン接種に参加してください。一人ひとりの接種が、この感染症の収束につながります。